

可茂農林事務所の普及活動状況（9月）

今月の重点活動

■ 花 ファンシーマリエ秋出荷始まる

東白川村の切り花生産者が切り花用フランネルフラワー「ファンシーマリエ」栽培に取り組んで3年目になり、9月上旬から今年度の秋出荷が始まりました。革新支援専門員、農業技術センター研究員の栽培指導も受けて、市場に求められる切り花長が確保され、また、花付きが良いものが収穫出荷できており、市場の評価は非常に高くなっています。

また、夏期の高温対策のため一部試験導入しているドライミストの効果により、切り花長が約5cm長くなり、その効果が確認できました。

現在、1回あたり1,500本程度の出荷を週3回行っており、秋の出荷は10月下旬まで続く予定です。今後、出荷量の平準化のため、秋の出荷の後も収穫期を一部遅らせ、11～1月の出荷も検討する予定としています。農業普及課では、生育調査を行っていくとともに、生産者の適期栽培管理を支援していきます。

（園芸産地支援・広瀬貴士）



【収穫直前のハウス内】

新たなブランドづくり

■ 栗 八百津町にて「みのかも栗振興会八百津支部」が発足

八百津町には100名以上の栗生産者がおり、長年それぞれが町内の菓子店に収穫した栗を出荷してきました。

農業普及課は、町農林課とともに栗生産者の組織化に向けた取り組みを4年ほど前から積み重ねてきて、今年8月に「みのかも栗振興会八百津支部」として生産者組織が発足し、JAを通じた出荷の道が開かれました。

9月6日に初出荷があり、まだ少ないながら確かな一歩となりました。これで八百津町の実産者らには出荷に関して新たに選択肢が増え、昨年までの個選出荷から共選出荷となり品質が担保され単価アップも期待されます。

また、組織化されたことで、待望されてきた県育成品種「えな宝来」、「えな宝月」の導入にも道が開かれました。農業普及課では「みのかも栗振興会八百津支部」を支援し、今後の発展に寄与していきます。

（園芸産地支援係・宮田洋輔）



【JA八百津支店に初めて出荷された栗】

売れるブランドづくり

■ 業務用米、多収性米 収穫期を迎える

JAと連携して実施している業務用米「あきさかり」および多収性米「ほしじるし」の成熟期となり、9月13日、18日および25日に成熟期調査および刈り調査を行いました。

高温で降水量も多かった影響か、いもち病や紋枯病が散見されるなどほ場もありましたが、まずまずの稔りになったと思われました。

今後、品質調査等を行い、JAや担い手と栽培改善や現地導入に向けた検討を行います。農業普及課は、担い手の経営改善に向けた取り組みを積極的に支援していきます。

（地域支援第二係・加藤昌亮、加藤瑞穂）



【成熟期の「あきあかり」】

多様な担い手づくり

■美濃加茂市 集落営農法人設立支援

美濃加茂市川浦地区では、法人設立準備委員会が11月4日の集落営農法人の設立を目指しています。

4月から月2回程度委員会を開催し、どのような法人にするか検討を重ねてきました。その内容がほぼ固まり、8月30日に川浦地区の三和交流センターで、準備委員会による法人設立の説明会が行われました。

委員長および副委員長から、法人概要と経営試算等につ



【法人設立に向けた説明会】

いて説明がされた後、参加者との質疑応答が行われました。一部の農家からは、今後の経営に若干不安視する声があがったものの設立反対の声は皆無であり、最終的には、拍手をもって設立が了承されました。

今後も、11月4日の法人設立に向けて支援していきます。

(地域支援第一係・三輪俊貴)

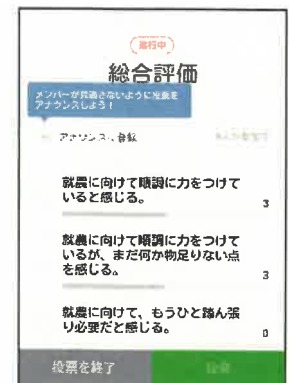
■美濃白川夏秋トマト 研修生の塾長遠征研修を実施

美濃白川夏秋トマト部会の専門部「あすなる農業塾長会」では、研修生の育成指導は産地全体で取り組むという認識の下で、研修生が受入塾長以外の6人の塾長を1日ずつ巡回し、それぞれ栽培を体験しつつ就農後の人脈作りを進めていく機会を設けています。

本年はこの遠征研修を8月19日から行い、研修生は6人の塾長のもとで各1日間農作業を行い、各塾長の経営感覚を学びました。

受入塾長以外の塾長は、新たな仲間になる研修生と時間を共有し、研修生の成長を肌で感じ取れる機会となっています。

8月から9月にかけては、ビニールハウスなど経営資材の導入直前の時期にあたるため、研修生の適性の最終判断を行うのに適しており、本年はこの機会を活用して研修生の評価制度を試験的に運用しました。



【SNS会議室での研修評価】

(園芸産地支援係・永田真一)

■農業大学校 先進農家派遣学習

9月9日～14日に農業大学校1年生が、9月24日～10月26日予定で2年生が先進農家派遣学習を行い、可茂地区では1年生8名を7ヶ所で、2年生6名を5ヶ所で受入れました。

9月24日には2年生の先進農家派遣学習出発式が可茂総合庁舎で行われ、可茂地区指導農業士会の生駒会長より激励の言葉が贈られました。

また、1年生の学習期間中の9月11日に、農業大学校職員と農業普及課職員とで受入農家訪問を行い、学習の状況を聞き取りました。

農業普及課は、今後一か月間の派遣学習中に個別巡回を行い、農業大学校生を支援していきます。



【学生を激励する指導農業士会長】

(地域支援第二係・加藤昌亮)